

取組実績の概要（2 ページ以内）

【申請時における本学の教育改革に関する課題】

本事業申請時(平成 28 年度)における本学の教育改革に関する課題を整理すると以下に集約された。

- (1) 学生に能動的・主体的な学修を促す取り組みを充実する上で、教員全体にアクティブ・ラーニングの重要性は共有されているが、その定義や促進のための具体策が不足している。
- (2) カリキュラム・マネジメントの確立には、既存の指標だけでなく不足の評価指標を開発して、多面的評価を実施する必要がある。
- (3) 学修成果の見える化やアセスメント評価の仕組みが煩雑で手作業で実行することが困難である。
- (4) 大学全体の外部評価体制はあるが、学外人材との協働による教育評価の仕組みが必要である。

【本事業における具体的取組】

そこで、本事業の具体的内容として、以下の取組を推進することとした。

本事業は、『卒業時における質保証の取組の強化～「学士課程教育」と「看護現場での現任教育」のシームレスな接続を目指して～』というテーマであるが、具体的には5つの事業計画を実施することとした。

- (1) 学士課程での学びと就職先での学びをシームレスに接続するための『看護職キャリアパス基礎スケール』の開発
- (2) 就職先と共有できるディプロマ・サプリメント（DS：学位証明書補足資料）の作成
- (3) 授業手法リストの整備と教員研修によるアクティブ・ラーニングの促進
- (4) アセスメントを実行可能にする評価システムの整備
- (5) 卒業生追跡調査を実施し、カリキュラム評価へ活用する

【本事業の取組状況と成果】

- (1) 看護職キャリアパス基礎スケールの開発

「看護職キャリアパス基礎スケール」を開発後、ポータルサイトから入力し DS に反映できるようにシステムを整え、令和元年度には 4 年次学生を対象に測定を実施した。また、「看護職キャリアパス基礎スケール」についてのパンフレットを作成し、活用案について外部検討委員と検討、令和元年 12 月 26 日のワークショップで説明を行った。今後の運用について検討し、運用に関する申し合わせ事項を作成した。DS への表示により学士課程と現任教育をつなぎ、その後のキャリア形成への活用や協働した人材育成に取り組めるものとなった。

- (2) DS（学位証明書補足資料）の作成

ディプロマ・サプリメント（DS）の様式や項目の検討を行い、教員対象の DS 説明会を実施、4 年次学生には、複数回、アカデミックアドバイザー（AA）担当教員との連携のもとに、DS に関するポータルの入力を促した。また、システムの設定上、DS には AA 担当教員からのメッセージが記載できなかったため、別様式でメッセージを作成し DS に添付する形にした。

令和元年 8 月に教員、九州管内赤十字病院看護部教育担当者を対象に、同年 12 月には教員および学生が就職予定の施設担当者を招聘し学内ワークショップを実施して、DS の活用方法を共有した。

学生には適宜 DS の周知を図るべくガイダンス等で説明した。プレ DS（学年途中の DS）が随時発行できるようになったため、適宜 AA ゼミや学生指導でも活用した。学生を対象に DS の概要、配布目的、活用について、ガイダンス等で複数回説明する機会をもち DS の認知度を高めることができた。

卒業予定者である 4 年次学生には、令和 2 年 3 月 5 日（卒業式予行）に配付した。

- (3) 授業手法の共有とアクティブ・ラーニングの促進

平成 30 年度に、Good アクティブ・ラーニング賞の表彰制度を整備し、①原則として、5 名以上の受講生を有する科目、②学生の到達目標の到達度の平均が高い科目（学生授業評価の入力率を考慮）、③教員が記載する科目毎の「自己評価シート」内のアクティブ・ラーニング実施状況と実施の具体的な内容・方法の工夫の 3 つとした。

平成 30 年度は、前期・後期の授業科目に分けて選考し、前期科目から 6 科目、後期科目から 5 科目を表彰後、対象科目を公開し、授業手法の共有化に努めた。

令和元年度からは、1 年間の授業科目から選考し、次年度に表彰することとした。

- (4) アセスメントを実行可能にする評価システムの整備

成績、GPA 順位等の成績や履修状況のほか、DP ルーブリック、科目別到達目標の達成度、夢・目標、PROG テスト結果等のシステム表示項目を決定し、学生個人の画面上で一元的に確認できるシステムを整えた。

また、教員が、上記項目を始め、授業アンケート結果もシステム上で確認できるようになったため、各データを連動して確認し、それぞれが担当する授業科目の質向上に資するシステムとなった。

更に、本学の質向上に係るアセスメント項目を決定し、質保証の PDCA を回せる仕組みの基盤が整った。毎年度、各アセスメント項目・データを分析し、カリキュラム改善に活用していく。

(5) 卒業生追跡調査

卒後 1 年目の卒業生追跡調査は、アンケート回収率を向上させるために在学時の AA 担当教員が個別にメッセージを記載しアンケート用紙に同封した。卒後 3 年目の卒業生に対しては、実習協議会等で訪問した主要な赤十字病院において、11 名のヒアリングを行った。

卒後 1 年目のアンケート回収率は、AA 担当教員が個別メッセージを添付した令和元年度においても 35%（平成 30 年度：28%）であり、回収率の改善までは至らなかった。

卒業生アンケート（卒後 1 年目、3 年目）と卒後 3 年目のヒアリング調査結果、令和元年度に実施した就職先アンケートの結果をカリキュラム改正の基礎資料となるように、教務委員会に情報提供するとともに、今後の学生支援にも活かせるよう学生支援委員会にも提供し、全学で活用している。

【目標の達成状況】

本事業の必須指標の達成度は下表の通りである。

本事業によって、学生の授業時間外学習時間、事業計画に参画する教員の割合、質保証に関する FD・SD の参加率は、平成 28 年度時点の達成度あるいは目標値を大幅に上回った。

卒業生追跡調査（卒後 1 年目、卒後 3 年目）についても達成度数値は増加し、ヒアリングも併用したため、深い内容の評価を得ることができた。

【補助期間終了後の展開】

補助期間終了後の展開としては、卒業生の就職先に DS に関する説明と活用に関する情報共有を図り、シームレスな接続を目指していく。更に、全国の看護系大学へ、DS 等の本学の取組内容の普及を促進するために、学会発表や論文投稿を行い、情報を発信していくこととしている。

【必須指標の達成度】

	平成 28 年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
学生の授業外学修時間	8.8 時間/週	16 時間/週	17.8 時間/週
事業計画に参画する教員の割合	55.3%	65%	84.4%
学生の成績評価 (GPA)	2.29 (平均)	2.8 (平均)	2.37 (平均)
進路決定の割合	100%	100%	96.9%
質保証に関する FD・SD の参加率	70.2%	85%	97.8%
卒業生追跡調査の実施率 (卒後 1 年調査)	14.8%	80%	35%
卒業生追跡調査の実施率 (卒後 3 年調査)	—	50%	11.3%